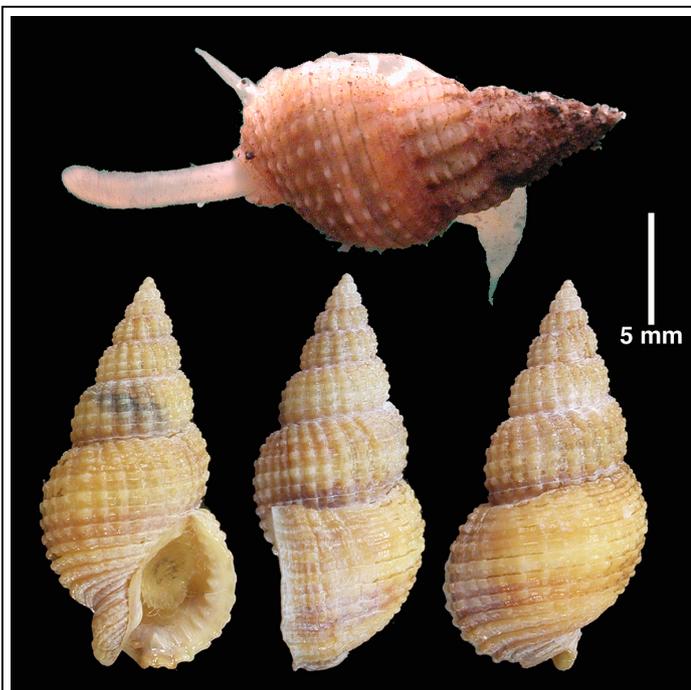


キヌボラ *Reticunassa japonica* (A. Adams)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての干潟から潮下帯砂泥底にすむ。県内では内湾域の干潟から潮下帯の環境は急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は外洋に面した潮通しの良い潮間帯下部から潮下帯のアマモ場周辺砂泥底に生息する。1990-2000年にかけて三河湾、伊勢湾湾口部で死殻が打ち上げられる場所は多かったが、生貝の個体数は非常に少ない(木村, 1996; 木村, 2000)期間が続いた。2006, 2007年の現地調査で知多半島南部沖の潮下帯のアマモ場より多くの生貝が採集され、2015年の調査でも知多半島内海沖の潮下帯のアマモ場周辺で多数の生貝が採集された。明らかな回復傾向が認められたので、前回(VU)よりランクダウンするべき種と評価された。



南知多町内海沖(ドレッジ水深 5-10 m), 2007年8月8日,  
木村昭一採集

【形態】

殻長約 15 mm で螺塔は高く螺層はよく膨れ、縫合はよくくびれる。殻はやや薄く、細く密な縦肋が細い螺溝で横切られ、顆粒状になる。殻口は丸く、十分に成長すると外唇は肥厚するが、内唇側の滑層は発達しない。生時には殻表をヒドロ虫(刺胞動物)で覆われている個体が多い。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように県内の内湾域では、死殻は比較的多く見られるが、生貝が確認できる場所は限られている。知多半島南部から渥美半島にかけての潮下帯には健全な個体が認められる。

【世界及び国内の分布】

日本、台湾、国内では本州以南から九州まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような生息環境悪化のため減少していると考えられる。本種はアマモ場周辺に多いので、アマモ場の減少も本種の減少の要因かも知れない。

【保全上の留意点】

アマモ場を含めた内湾干潟から潮下帯の生息環境を保全する。干潟を保全し、水質の富栄養化を防止することが必要である。

【引用文献】

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20.

(木村昭一)